

社団医療法人 養生会 月刊発行新聞

かしま

ほつと HOT ほつと hot 通信

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、
QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

10月号 Vol.369

令和5年（2023年）10月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室

■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143

福島県いわき市鹿島町下藏持字中沢22-1

tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。

かしま病院広報企画室まで

kouhou@kashima.jp

1 卷頭特集

「いわき地域医療セミナー」を実施しました

2

赤井中学校の職場体験学習を行いました

3

コラム ひんがら目（196）

「社会基盤のサステナビリティ」

呼吸器科 部長 山根 喜男

4

ようこそ家庭医療へ！

リハビリPOST

インフルエンザ予防接種のお知らせ

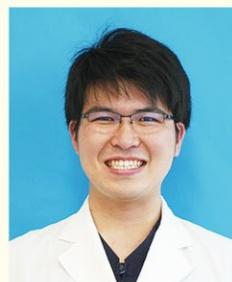
かしま荘通信



総合診療科

石川先生退任のお知らせ

家庭医療の専攻医として、総合診療科で勤務した石川先生。当院での研修プログラムを終えて、次の場所で活躍されます。



総合診療科の石川拓磨です。この度 2023 年 9 月をもちまして異動の運びとなりました。これまでお世話になった患者様や院内外の皆様にはこの場を借りて心より御礼申し上げます。この 1 年半あつという間でしたが、おかげさまで明るく楽しい時間を過ごすことができました。また皆様にお会いできる日を楽しみしております。本当にありがとうございました。



5 卷頭特集

「いわき地域医療セミナー」を実施しました

いわき地域医療セミナー
プログラム内容

- 院内見学
- 訪問診療への同行
- 特別養護老人ホームや施設見学
- いとちワーク（まちあるき）
- いとちかいぎ（多職種とのワークショップ）
- 院長講話



当院では 8 月 3 日（木）、8 月 23 日（水）、9 月 28 日（木）の 3 回に分けて開催しました。いわき市地域医療セミナーは、「地域の医療機関に関係する方（行政・患者・住民）や現場で働く医療人と直接接することで、地域における医療の問題を理解し、医師への期待を知ることで、自分が目指す医師像を描き、医学生としての自覚を更に高め、幅広い学習への動機づけの機会とすること、また、医師や他の医療職に求められるスキル、患者中心の診療態度を理解すること」を目標としています。この開催趣旨に伴い、当院では次のプログラムを実施しました。その様子をご報告します。

いわき市が連携して行っています。平成 27 年度からは県立医科大学大 3 年生の授業カリキュラムの一環として実施されており、平成 29 年度より 2 泊 3 日の実習となりました。市内の複数医療機関を舞台としてそれぞれの特色を活かして学ぶプログラムを実施しました。

い

わき市地域医療セミナーは、平成 21 年度から公立大学法人福島県立医科大学（以下、県立医科大）と



訪問診療への同行

当院の医師・看護師とともに訪問診療に同行し、入所者さんとの交流や実際にバイタル測定を行うことも体験しました。

慣れないことに苦労しながらも、訪問診療先のスタッフの方のご協力のおかげで、とても貴重な経験を得ることができました。



院内見学

患者さんが集中する朝の時間帯に、健診・外来・病棟・リハビリ・薬剤部・検査科など院内各所を回りました。医師の診察を起点として、患者さんや他のスタッフがどのように動き、関わっているのかを見ることが出来ました。また、スタッフからもそれぞれの部署の役割や仕事に対する想いなどお話しを聞く機会がありました。



いとちワーク (まちあるき)

かしま病院は設立当初から総合診療に力を入れてきました。病気だけでなく患者さん自身を総合的に診ていくには、その人の生活環境やライフスタイル、人間関係などにも目を向ける必要があります。

スマホやカメラを持って実際に鹿島町を散策し、「鹿島らしい」写真を自分なりの視点で撮影しました。一通り歩き終えたらホールに戻り、それぞれ撮影した写真から3枚選び、どんな所に注目したか、どんな思いでその写真を撮ったか?などを皆と共有します。



いとちかいぎ (多職種とのワークショップ)

前半は導入として、総合診療科・渡邊医師と事務部・江坂からそれぞれ「医療側」と「地域側」から考える地域医療について発表を行いました。

後半は多職種を交えてのワークショップを「えんたくん」を使って行いました。「えんたくん」は8mm段ボールを丸型に加工したもので、椅子を囲み膝の上にえんたくんを乗せて使用します。

5名程のグループをいくつか作り、「あなたにとって理想の地域医療とは?」「その実現のためにあなたが明日からできることは?」などについて自分の考えを言語化し、えんたくんにお互いの意見を書き連ねていきました。



施設見学 特別養護老人ホームや

施設で生活している入所者さんとの対話やバイタル測定実習を行いました。

このプログラムの一番の狙いは、「医師としての技術獲得の前に大切なことは、寄り添って聞くこと、その人の人生の物語に想いを馳せ、対話すること」を感じて欲しいということです。

それぞれが利用者さんから、生活の事や家族の事、身体の調子などを聴いて寄り添い、その後皆で利用者さんから聴いたお話を共有しました。



院長講話

当院の石井敦院長より、将来医師として活躍するときに大切な考え方や視点などを、激励の言葉として医学生の皆さんへ送りました。

医学生の皆さん、1日がかりの実習お疲れ様でした!初めての事もあり緊張もしたと思います。

かしま病院での「地域医療」についての学びが将来の皆さんの一助になればとても嬉しいです。これからも頑張ってください!

赤井中学校の職場体験学習を行いました。

9月1日(金)、赤井中学校の生徒2名の職場体験学習を受入れました。

かしま病院の施設概要や地域での役割等を説明した後は、看護部をはじめ、医療技術部や薬剤部をまわり、それぞれの仕事を体験していただきました。将来の職業選択の一助になれば嬉しく思います。



看護部

- ・看護職の仕事についてのお話し
- ・手洗い実習
- ・バイタルサイン測定、聴診器体験
- ・老人模擬体験
- ・BLS、ハイロー装着体験



血圧測定



心肺蘇生法の体験

体験学習Ⅱ(各担当部署)

- ・臨床工学技士(ME)の仕事を体験してみよう!
- ・診療放射線技師の仕事を体験してみよう!
- ・臨床検査技師の仕事を体験してみよう!
- ・薬剤師の仕事を体験してみよう!



体験学習Ⅰ

- 介護施設の現場見学
～高齢者とのコミュニケーション～・手洗い実習



社会基盤のサステナビリティ
自分らしい生き方を求めるばかりでなく、
社会基盤を支える気概も持ちましょう

先日、恩師新田澄郎先生を偲ぶ会に参列しました。昨年6月に86歳でご逝去されました。がコロナ自粛の時期で家族葬しか出来なかつたので、1年以上経つてから京王プラザで偲ぶ会が行われたという次第です。

先生は東北大学抗酸菌病研究所で研鑽され、小著もそこで呼吸器外科医として育てて頂きましたが、その後、東京女子医大教授に就任され東京へ去つて行かれました。

今回の偲ぶ会は東京女子

医大と東北大学の2つの呼吸器外科教室の共催で行われ、奥様とご令息にお悔みを申し上げると共に、旧知の諸先生方と思い出話に浸りました。

小著と同世代の先生方の多くは、第2、第3の職場で非常勤医師として勤務されています。ここ数年に癌死された先生も数名にのぼり、元気な参列者も半数近くは大腸がんや白内障の手術を受けた経験がありました。

おありでした。医師不足、とりわけ地方病院の医師不足は深刻でして高齢化した非常勤医師などにお願いすることで急場を凌いでいることが多くなっています。

しかし、これらの非常勤医師には連続性と安定性に問題があります。ひとりの患者さんを連続して診療することが難しく、健康上の都合で欠勤する可能性もあります。そこはなんとか氣概のある脳の乗った中堅の登場を期待したいのですがなかなか見つかりません。

小著は65歳の定年後も嘱託医として診療に加えて頂き、9年近く呼吸器科を楽しんで来

ましたが、不注意が甚大な事故に繋がりかねない医療現場ではそろそろ次の方に責任のバトンを渡したいと思っています。診療だけではなく、市役所・医師会の肺がん検診、保健所の結核などの感染症対策。これらの責任は小著にあるのではなく、各機関の長の責任ですが、関係者になった以上、自分にも責任があると自認しています。

ひとの生き方には、通りがあるようになります。置かれているところで花をさかせるのか、新天地に活路を見出すのか。伝統を継承するのか、因習を打破するのか。ネアンデルタール人が滅びたのに、現生人類が生きのびて来たのは、周りの変化に適応してきたからだと言われます。進取の気質こそが貴いものであり、新しいものにチャレンジする起業家精神が奨励されています。

しかし、大半の人は起業をしないか、起業をしても失敗します。そういう人たちでも、いや、そういう人たちこそ社会基盤として社会の安定に貢献しているのです。コロナ禍で話題になつたエッセンシャルワーカーです。大きな社会を変えるのは織田信長のような歌舞伎者かも知れませんが、国民全員が一発逆転を狙つてんでバラバラな方向を目指したら、社会は不安と混亂の極みに陥ります。

ひとりひとりが、自分探しをして小さな逸脱をする自由は尊重されるべきですが、同時に、先人が長年の観察を集めて作り上げた社会基盤を支えること、社会を支える責任を感じ伝統を守る気概を持つことも大切です。

医師養成機関の長や、エッセンシャルな医療機関の長、地域の医師会、行政の長の方々は、地域医療のサステナビリティについて責任を自覚し行動して欲しいものです。

(呼吸器科 部長 山根 嘉男)

ひんがら目(196)



ようこそ 家庭医療へ!

～いわきに生きる家庭医育成への挑戦～

医師として長年働いてきて実感していることとして、臨床医にとって最も大事なことは、至極当たり前ではありますが、社会人としての振る舞いができるかどうかだと思います。とくに医学生や研修医は、専門的な技術の習得にはばかり目が行きがちです。しかし、臨床の現場で医学生や研修医に求められるのは、コミュニケーションを円滑に行うことで、様々な医療スタッフや患者さんから信頼してもらえるかどうかということだと思います。

医学生や研修医は病院スタッフの中で特に臨床現場での経験が乏しいため、指導医だけでなく、看護師や薬剤師、臨床検査技師などの様々な医療スタッフから現場でのやり方を教えてもらう必要があります。そのため、他の医療スタッフから親しみを持って接してもらうための努力が重要です。

私自身が研修医だった時も、様々な診療科をローテーションするため、その都度新しい環境で一から人間関係を築かなければならぬ機会が何度もありました。決して社交的ではない私にとって、それはドキドキの連続でもありました

第164回 立派な社会人になれるかな～？

石井 敦 病院長



し、よくわからないことも聞くに聞けず、誰も見たことのないような独創的な指示出しをして、看護師さんをびっくりさせたりしていました。それでもなんとかやってこられたのは、多くの指導医や医療スタッフの皆さんとの温かく根気強い見守りがあったおかげなのだと、今更ながら深く感謝しています。

今、多くの若い医療人を教育する立場になり、時に「社会人としてどうなんだろう？」と感じる学生や研修医に遭遇します。そんな時は「立派な社会人として成長してもらうために、何か自分に支援できることはないだろうか？」と自問自答するようにしています。「問題のある（ように見える）学習者」には、たいがい何かしらそういう理由があって、そこを見出してあげることができれば、きっと社会貢献できる人材として世に送り出せるようになるものだと信じています。



かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する石井敦病院長は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。

リハビリ POST

第 151 回

自助具①

ことを言います。私の回では日常生活動作の中でも頻度が多いとされる着替える動作に使用すると便利な自助具を何点かお伝えていきたいと思います。

着替えをする際の代表的な自助具として、ソックスエイドやボタンエイドが挙げられます。また、その他に患者様によってはマジックハンドなどもリハビリで提供することもあります。初めにソックスエイドとは、病気やケガや腰痛持ち等の方が股関節や膝

今は自助具について二回に分けてご紹介をしていきたいと思います。まず自助具とは、身体に不自由な方が快適な生活を送るために日常生活動作が少しでも自分の力で出来るように工夫した「生活を補助する道具」の

関節の曲げ伸ばしが難しく、足先まで手を伸ばすことが出来ない、前かがみの姿勢が取れず靴下を履くことができないという方をサポートする自助具です。こちらは市販もありますが、100円ショップなどで揃うものを使用して簡単に自分で作ることができます。我々はその人にあったものを手作りして提供することができます。次にボタンエイドですが、こちらは手指の細かな操作が難しくボタン留め・外しが困難な方をサポートするという自助具です。

これらの自助具を使用することにより、今まで出来なくて諦めていた動作ができるようになって生活の幅は広がり、活動量が増え自立度を高めてくれます。また介護者の負担の軽減にも繋がります。

作業療法士 佐竹 夏帆



かしま荘通信

賀寿・誕生日のお祝い
9月18日(月)

9/18(月) 賀寿の方と今月誕生日をお迎えになられる方たちのお祝いを行いました。

家族会会長様にもご出席いただき、賀寿の方には御祝を贈呈していただきました。

皆様、これからもお元気にお過ご下さい。



インフルエンザ 予防接種 のお知らせ

	実施期間	2023年 10月16日(月)～12月22日(金)
	日時	月曜日～金曜日 受付：14時30分 実施：15時
	料金	一般の方…3,500円 (高校生以上) 65歳以上の方…1,400円 (いわき市に住民票のある方)
	受付方法	2023年10月2日(月)より受付開始 受付時間 診療窓口 8時30分～16時30分 お電話 13時30分～16時30分

TEL:0246-58-8010 月曜日～金曜日 (祝日除く)